

みかげ芸術堂～新たな命を吹き込んで～

Salon de Thé



神戸市灘区
谷眼科医院
院長 谷 恵美子
(みかげ芸術堂館長)

1983年に神戸大学医学部を卒業し、同大学医学部眼科学教室に入局。兵庫県立こども病院、社会福祉法人恩賜財団済生会兵庫県病院、国家公務員共済組合連合会六甲病院（現・医療法人若葉会六甲病院）での勤務を経て、1995年に神戸市灘区で開業。1997年より神戸大学医学部研究生となり、2002年に学位取得。2005年に医院を灘区森後町に移転し、現在に至る。日本眼科医会代議員、兵庫県眼科医会常任理事。



みかげ芸術堂外観



1階ホールのスタインウェイグランドピアノ

このたび、私に突然舞い込んだ新たな挑戦について、経緯をご存じの担当MRさんより、執筆依頼を頂きました。眼科的な話題からは大きく外れることをお許しください。

「二兎を追うものは一兎をも得ず」「得手に帆を揚げる」などのことわざがありますが、昨今は「二刀流」が大注目を集めています。考えてみれば、われわれ女性医師は、「家事と仕事」「育児と仕事」と、二刀流以上をこなさざるを得ない生活を送ってきており、おのずとその要領を体得してきたのかもしれない。

家事や育児に四苦八苦しながらの勤務医時代、開業しながら研究生として大学での臨床研究の日々、その育児や臨床研究が一息ついた時に出会ったのが「歌の世界」でした。

高じて、2018年より、神戸市

立神戸アイセンター病院長で素晴らしいピアニストでもある栗本康夫先生たちと、視覚障害者の方々へのチャリティーとして「瞳かがやきコンサート」を兵庫県立芸術文化センターにて毎年開催し、ピアノ演奏やオペラ公演を行なうようになりました。また、2020年より、神戸市の閑静な住宅街、阪急御影駅のすぐ南側に佇む世良美術館にて「みかげアフタヌーンコンサート」を開催し、栗本先生や松本玲先生（神戸市・レイクリニックス院長）たちと演奏をしています。

この世良美術館は、洋画家・小磯良平氏の弟子であった女流画家・世良臣絵さん（1911～2009年）が1992年に開館。落ち着いた雰囲気、地域文化のゆりかごのように存在し、その建築は数々の賞も受賞

しています。ところが、2025年3月末をもって閉館が決まったため、館長より私に白羽の矢が立てられて、その後の運営を託されることになりました。

1階ホールには、2001年よりスタインウェイグランドピアノが常設されました。床は大理石、天井は吹き抜けで、音響が良いことが好評で、ピアノやバイオリン、声楽や邦楽など、さまざまな音楽会が毎週のように開かれています。

このホールは皆さまの活躍の場、発表の場として残し、また、地下ギヤラリーではさまざまな作品を展示し楽しんでいただけるようにと考え、2025年6月に「みかげ芸術堂」に改称し、新たにスタートしました。6月8日（日）には「柿落としコンサート」を開催し、10人のプロの音楽

家、世良美術館を設計された建築家・瀬戸本淳氏、そして私の総勢12人で華やかに演奏し、新たな幕開きを祝いました。

開館後1か月間（6月8日～7月6日の開館日）ホールを飾るのは、御影にアトリエを持ち、神戸の街の風景などを描いてきた木版画家の川西英さん・祐三郎さん親子の作品です。

お越しいただける先生には、ぜひご連絡いただけると嬉しいです。

みかげ芸術堂
神戸市東灘区御影2丁目5-21
TEL 078-821-8238
FAX 078-821-8238
<https://mikage-art-hall.com/>

